

各位

会社名 ラクスル株式会社
 代表者名 代表取締役社長 CEO 松本 恭攝
 (コード: 4384、東証プライム市場)
 問合せ先 取締役 CFO 永見 世央
 (TEL. 03-6629-4893)

2022年7月期連結業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、2022年2月1日に公表した2022年7月期(2021年8月1日~2022年7月31日)の連結業績予想を下記のとおり修正いたします。

また、当社は、本日公表いたしました「会社分割(簡易新設分割)、新設会社の株式譲渡及び第三者割当増資によるセイノーホールディングス株式会社との合併に関するお知らせ」のとおり、ハコベル(物流のプラットフォーム)事業の分社及び合併事業化(以下、「JV化」といいます。)が決議されたことに伴い、2022年7月期第4四半期連結会計期間において、法人税等調整額(益)を計上する見通しとなりましたので併せてお知らせいたします。

記

1. 2022年7月期連結業績予想の修正(2021年8月1日~2022年7月31日)

	売上高	売上総利益	営業利益	non-GAAP EBITDA	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
通期	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回公表	35,600	10,200	330	1,440	△210	320	11.06
予想(A)	~36,600	~10,600	~380	~1,540	~△160	~370	~12.78
今回修正	33,400	9,600	330	1,440	△250	880	30.00
予想(B)	~33,800	~9,800	~380	~1,540	~△200	~930	~32.00
増減額 (B-A)	△2,200 ~△2,800	△600 ~△800	—	—	△40 ~△40	560 ~560	18.94 ~19.22
増減率 (%)	△6.2 ~△7.7	△5.9 ~△7.5	—	—	△19.0 ~△25.0	151.4 ~175.0	150.4 ~171.2

(注1) non-GAAP 業績値は、財務会計上の数値(GAAP、日本基準)から非経常項目やその他特定の調整項目を一定のルールに基づいて控除もしくは調整したものです。当社の恒常的な経営成績を理解するために有用な情報と判断しており、当社は non-GAAP ベースで予想値を開示しております。具体的には、株式報酬費用、減価償却費及びのれん償却費を中心に、当社が控除すべきと判断する一過性の利益や損失などを控除もしくは調整しております。

(注2) 2021年7月期は連結決算を行っていないため、前年実績は記載していません。

2. 修正の理由

当期の売上高に関して、ラクسلセグメントにおいては、まん延防止等重点措置の継続的発令による外部環境の影響を一定程度受けていることに加えて、ノバセルセグメントにおいても同セグメントの中心顧客であるスタートアップ企業の資金調達環境の変化による需要の弱含み等により、前回公表数値から減収の見通しとなっております。

一方、利益面に関しては、SaaS収益の拡大や2022年2月に完全子会社化した株式会社ダンボールワン（以下、「ダンボールワン社」といいます。）の利益貢献を中心に、各事業において売上総利益率の改善に注力し、当社企業価値の源泉である売上総利益は9,600百万円～9,800百万円を見込んでおります。また、販管費において、より投資対効果を重視したコストコントロールを継続的に行うことで、non-GAAP EBITDAは1,440～1,540百万円、営業利益は330百万円～380百万円と前回公表の業績予想と同水準を見込んでおります。

経常利益以下につきましては、前回公表のとおり期中での連結決算開始による期首に遡及した持分法投資損益の取込み、ダンボールワン社の完全子会社化に伴う評価差益（段階取得に係る差益）及び後述3.に記載の法人税等調整額（益）を織り込んでおります。

（注1）上記の業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績等は今後の様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。

（注2）その他の情報については同日公表の「2022年7月期第3四半期決算説明会資料」（下記一部抜粋）をご参照下さい。



2022年7月期通期 連結業績予想の修正

- まん延防止等重点措置の長期化やマクロ環境の変化の影響を受け、売上高、売上総利益ともに6%台の下方修正となるものの、30%以上の強い成長を継続。また利益面は予定通りの着地で、増益トレンドを継続
- 全事業開散期の4Qは売上高が前年同期比+39~45%、売上総利益が同+43~54%、EBITDA(non-GAAP)が4.9~5.9億円程度で着地見込み

(億円)	2022年7月期通期 (2021年8月-2022年7月)			2021年7月期通期 ⁽¹⁾ (2020年8月-2021年7月)	
	修正予想	前回予想 (2022年2月10日開示)	増減率	単体実績	成長率
売上高	334~338	356~366	-7.7%~-6.2%	255.2	+31%~+32%
売上総利益	96~98	102~106	-7.5%~-5.9%	70.9	+35%~+38%
売上総利益率	28.7%~29.0%	28.7%~29.0%	+0.0pt~+0.1pt	27.8%	+1.0pt~+1.2pt
EBITDA (non-GAAP)	14.4~15.4	14.4~15.4	-	10.3	+40%~+49%
営業利益 (non-GAAP)	10.0~11.0	10.0~11.0	-	8.3	+20%~+32%
参考指標					
EBITDA マージン	4.3%~4.6%	4.0%~4.2%	+0.3pt~+0.3pt	4.0%	+0.3pt~+0.5pt
広告宣伝費除く EBITDA (non-GAAP)	42程度	43~44	-4.5%~-2.3%	29.8	-41%
ROE ⁽¹⁾	11%程度	4.2~4.8%	+6.2pt~+6.8pt	2.3%	+8.7pt

財務インプリケーション

売上総利益
EBITDAマージンを改善しつつ、35%以上の売上総利益成長を継続

売上総利益率
内製事業のプライシング及びダンボールワンの完全子会社化に伴い、全社売上総利益率は29%程度に改善

EBITDA(non-GAAP)
営業利益(non-GAAP)
前回予想通りの着地見込み。EBITDA(non-GAAP)の成長率は売上総利益の成長率を超過

ROE
今期は11%前後のROEを想定

注
(1)2022年7月期については連結初年度のため、親会社株主に帰属する当期純利益予想を期末の想定自己資本金額で除した数値

38

3. 法人税等調整額（益）の計上について

本日公表のJV化を考慮した当社及びダンボールワン社の今後の業績の見通しを踏まえ、繰延税金資産の回収可能性を慎重に検討した結果、回収が見込まれる部分（JV化により臨時的に生じる回収可能部分を含む）について、2022年7月期第4四半期連結会計期間において繰延税金資産及び法人税等調整額（益）約745百万円を計上する見込みです。

以上